



社会福祉法人

# わらしべの里通信

春から夏にかけて

第6号(通巻20号)

発行日 2005年7月1日

## グループホーム・開所 おさんぽ

### 関係者の夢叶う

その名は「わらしべの宿」

平成17年4月、関係者悲願の「知的障害者地域生活援助(通称:グループホーム)」が開所した。

現在25名の仲間たちが平日の日中活動の場として「わらしべの家」がある。しかし「家」という名前ではあるが仲間たちが寝泊りする「家」ではない。

以前から仲間やその保護者の一部の声に「親元から離れ、一人で生活がしたい」や「親亡き後の子供の将来が不安」など切実な思いがあったのだが、資金面や運営面など現実的な面での課題が山積していたのも事実であった。

しかし、「準備が整うまで待っていたのでは時間がない!」という関係者の熱意が高まり、昨年、保護者を中心にグループホームに関する研究会を発足しグループホーム開設準備委員会を設立した。

そして約1年後の今年4月1日ようやく念願のグループホーム『わらしべの宿』が新栃木駅付近のアパートを利用し開所した。

グループホーム第1号の入居者は男性2名、女性3名の計5名。彼ら5名が「世話人」と呼ばれる専門職員による支援を受け生活を開始した。

わらしべの宿開設直前、わらしべの家施設長である金坂は、「現在、グループホームは栃木県内に80箇所以上あり、わらしべの宿は

後発組である。しかし、その質は“濃くて豊かなもの”にしたい」と語る。

その言葉に応えるかのように、入居者たちは家族とともに過ごしていたときはほとんどしたことのない家事をしたり、自分のことは自分の責任で行うなど、自立した生活を目指し日々生活をしている。

グループホームの将来について、「将来は一日も早く、バリアフリー対応住宅を基本としたグループホームを作りたい」と早くも次なるグループホーム開設を目標に置いている。

### 第2回わらしべの里 チャリティーコンサート開催

3月5日(土)栃木市文化会館において、「第2回わらしべの里チャリティーコンサート『寺内タケシとブルージーンズ』」が開催された。チャリティーコンサートは昨年に続き2回目。

来場者は“昔若かった”方たちを中心に約800名のお客様にお越し頂いた。「寺内タケシとブルージーンズ」の今年のテーマは“恋”。「恋人もぬれる街角」や「京都の恋」など約30曲を2部構成で披露された。そしてコンサートの最後は仲間たち全員で“WAになって踊ろう”を歌い、来場した観客も総立ちになり春の夜はゆっくりと、そして熱く時が過ぎていった。



社会の福祉を必要とする人たちに、家族の努力だけに任せられ、社会の側からは何もされない時代があった。

次には、社会が必要最低限の援助はするが、それには同情や憐れみの気持ちが含まれている慈善事業の時代があった。

そして、人として生きていくための基本的人権が前提とされ、それが必要な状況にある人たちが社会福祉の援助をうけるのは「当然の権利」とされたのが、日本では昭和25年の終戦になってからである。

戦後の混乱期にあって生活保護法に始まって、児童、障害者、高齢者、母子福祉など各法律が整備された。

昭和の30年代には国民皆保険、皆年金の時代に入り、日本の社会福祉・社会保障の枠組みがかたまってきた。

このころは「収容保護主義」といわれ、身体的ケアと日常生活の援助を中心とした「入所型の福祉施設」が多かった。

このあとに地域福祉の概念が育ち「ノーマライゼーション」の取り組みが、日本の各地で試みられ、福祉の大勢となってきた。障害があっても無くても、普通の人として地域社会に暮らして生きていくかたち、そのためのグループホームがようやくわらしべの里に、この4月、できたのである。

次の課題は、肢体障害、車椅子利用の人でも利用し、そこに知的障害の人たちとともに、居住できるグループホームを実現することである。

(金坂)



『わらしべの里通信』第6号(通巻20号)

発行元 社会福祉法人わらしべの里

発行責任者 金坂 直仁

編集者 わらしべの家パソ工房

〒328-0011 栃木市大宮町2708-3

電話 0282 27 1627

Fax 0282 27 1675

E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp(事務所)

http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/

### 春の一日

4月8日(金)午後、毎年恒例の「お花見会」を行いました。会場は市内でも桜の名所である「永野川緑地公園」で行われました。



昨年に比べ今年は4月になっても花冷えのする日が続いておりましたが、お花見会当日は仲間たちの日頃の行いが良かったせいか!?若干風が強かった程度で暖かな陽射しに恵まれちょうどよいお花見日和になりました。



暖かな春の日差しの下、八部咲きの桜花たちに囲まれ、仲間たちはその足元で“いなり寿司”や“おだんご”など調理スタッフの愛情たっぷり??のお弁当を桜を愛でながら頂きました。

しかし「花より団子」とはこのこと、お弁当を食べた後は、野球やサッカーをしたり、散歩をしたりなどなど、まるで冬眠から目覚めたかのように“花より遊び”に夢中になりレクリエーションに没頭していました。こうして春の暖かな一日が過ぎていきました。



野球に勤しむわらしべ野球小僧!?

### わらしべの里さつき祭り開催

大型連休真っ只中の5月4日水曜日、栃木市惣社町にある和膳処「八嶋の郷」において“第1回わらしべの里さつき祭り”が開催されました。会場となった八嶋の郷駐車場では、イチゴやきのこなど農作物の直売店など6店が出店し、仲間たちも一緒に販売のお手伝いをさせていただきました。



五月晴れの青空の下、午前11時に「野中町お雛子保存会」の皆さんによる太鼓を合図に“わらしべの里さつき祭り”は開催されました。

そして午後2時、店内において“カントリーミュージックコンサート「石田新太郎とシティライツ」”が開演され、ウエスタン・スタイルで現れた石田新太郎さんと石田美也さんたちが奏でるウエスタン・ミュージックに、来場した往年のカントリーミュージック・ファンたちはその歌声に酔いしれていました。



仲間代表より花束贈呈

<協賛団体・企業>

荒川建設・農事組合法人アグリテック栃木  
西山きのこ・小菅いちご農園・手工芸クラブ  
栃木ケーブルテレビ・野中町お雛子保存会  
花琳(敬称略) 以上、皆様方のご協力により開催できました。誠にありがとうございました。

~ アルミ缶リサイクル活動開始 ~

4月より新規事業として「アルミ缶リサイクル」作業を始めました。この事業は、不要になったアルミ缶を収集し洗浄・潰したあと、小山市にある『昭和アルミ株式会社』に搬送し買い取って頂くという内容です。

先日は約 165kg のアルミ缶を持ち込み 11,680 円の収入を得ることができ、これを仲間の給料の財源に繰り入れました。

今後ともこの事業を活発に行い地球環境の保全と仲間たちの収入の足しになればと考えていきます。

### ~ 編集後記 ~

今年の梅雨は30度を越す日が続き、一体、梅雨と夏はどこで見分けるのだろうかと思う。でも、今年の夏は海やプールへ行き、思いっきり水の中に飛び込みたい。そして、夜は花火を見ながら夏の夜を涼む・・・夏は予定がたくさんあるので、夏は好きだ。(渡邊)

毎回、原稿の締め切り日が近づくと胃があ～。でも、この編集後記を書いていると「次からはこうしよう!」と思うのだが、なかなか次に生かされないのはなぜか?(雅)